

ハタノ製作所

浴槽の接続金具・配管メーカー

西日本

躍動 146
ニューノーマルを
生きる成長企業群

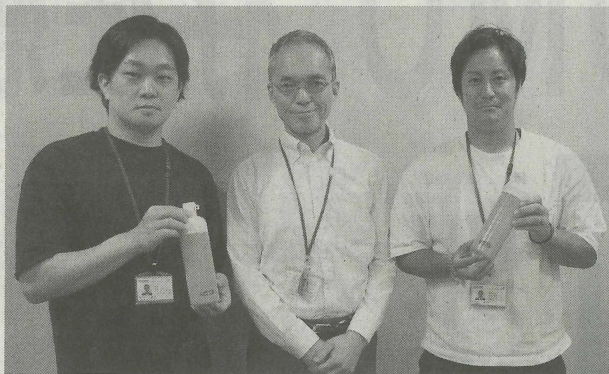
ハタノ製作所（大阪府和泉市、波多野昇社長）は、浴槽の接続金具や配管の製造、販売を手がけ、国内の大手浴槽メーカーに納入している。1966年の創業時に木風呂において板同士の合わせ目を固定する「合いクギ」やゴム栓などの販売を開始。その後、追い炊きなどで浴槽の水を給湯器に戻し温め循環させる「循環金具」を製造し、国内シェアトップに成長した。

ハタノ製作所は「浴槽の出っ張りをスリムにする」「ホースの向きを変えられる」などの機能性やデザインとして、洗浄用シャワ

性、施工性などの観点で顧客からの高い要求にこたえてきた。波多野社長は「使っている人に喜んでもらえる商品に50年以上続けてい

ーボトル「ケアシルボトル」を24年9月に発売した。ボトルを握ることで先端に開けられた穴からシャワーのように水が噴き出す仕組み。介護が必要な人の排せつ後の陰部に温水を噴きつけて洗う用途で使う。キャップが開いた状態で横に倒しても水がこぼれないことが大きな特徴。介護施設や病院でボトルを倒して中の水がこぼれるケースがあるため、水漏れを防ぐことでシートを取り換える手間が省ける。また水温38度C以上で青色からピンク色に変わる温度シールを付けることで、ボトル内の温水が冷えていないか確認できる。開発担当者が「親の

機能・デザイン、要望に対応



介護用の洗浄ボトルの開発を皮切りに介護事業を推進している（中央が波多野社長）

介護に関して、もう少しケアできれば良かった」との思いを共有した。ハタノ製作所は循環金具の製造に關して、大阪府を中心とする製造業約100社に盛り返った話を受ける。波多野社長は「と部品の製造や加工などを外注してきた。こうしう」と23年9月、開発したサプライチェーンにゴーサインを出し（供給網）を活用した。営業担当者を中心としてボトルを製造してい

介護で事業多角化、相乗効果狙う

投資会社の目線

【大阪中小企業投資育成 事業ソリューション部・佐藤倫章専任役】ハタノ製作所は半世紀以上にわたり日本の風呂文化を支え、特に循環金具では業界トップシェアを誇る。多様なユーザーニーズに応じた製品開発や介護・福祉分野への展開など、柔軟な対応力が強み。「青く輝く地球を次の世代へ」をスローガンに、オンリーワン企業を目指す同社を今後も応援したい。

る。すでに商社経由で介護施設や病院などとしてある。波多野社長は「今までは風呂の販売だけで営業活動の一本足に活動の中で、顧客から求めている。違う軸足をボトルの感想や要望を聞いていきたい」とヒアリング。ベッドのし、事業を多角化して柵にかけるフックを付けたボトルなど顧客の意見をとり入れた改良品を8月に発売した。狙うことも視野に入現在、第2弾となる介護製品の開発を進めている。（南大阪支局長・富井哲雄）

介護事業を始めた狙いには住宅業界の厳し（木曜日に掲載）